

離宮八幡宮文書目録

(四) 近代・現代編 3

山城国乙訓郡大山崎莊（京都府乙訓郡大山崎町）

序

神奈川大学日本常民文化研究所 大山崎調査プロジェクト

代表 中 島 三千男

『離宮八幡宮文書目録(四) 近代・現代編3』をお届けします。本目録は神奈川大日本常民文化研究所(以下「常民文化研究所」と略)が刊行してきた『離宮八幡宮文書目録(一) 近世編』(二〇一九年三月刊)、『離宮八幡宮文書目録(二) 近代・現代編1』(二〇二〇年三月刊)、『離宮八幡宮文書目録(三) 近代・現代編2』(二〇二二年三月刊)に続く離宮八幡宮文書の目録としては最後の目録となります。

また、それにとどまらず、「常民文化研究所」がこれまで刊行してきた、大山崎地域の六家一〇冊の目録の最後となります。

このため、本目録にはこれらの目録作成に中心的に関わってきた田上繁に『離宮八幡宮文書目録』の解題にあたる部分だけではなく、「常民文化研究所」の四〇年にも及ぶ大山崎地域の調査・研究活動の総括的なものも書いていただきました。(『離宮八幡宮文書目録(四) 近代・現代編3』の編集・刊行にあたって)。以下、「編集・刊行にあたって」と略。

それにしても、最初の『疋田家文書目録』(2分冊、二〇〇五年)の刊行から今回の最後の目録刊行迄二〇年近くかかってしまい、関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

実は当時文部省が世界に卓越した研究業績を世界に発信するために企画した「21世紀COEプログラム」に神奈川大学の「人類文化研究のための非文字資料の体系化」というプロジェクトが二〇〇三年に採択されました。「常民文化研究所」はその中核的な組織となり、その中の「大山崎調査プロジェクト」のメンバーもその中心的メンバーとして組み込まれ、いわば「二足の草鞋」を履かざるを得なくなりました。いや、「二足の草鞋」というよりも、COEプログラムは国、大学をあげての取り組みということで、そちらの方に重点を置かざるを得なかったためです。

こうした我々側の事情にも拘わらず、遅ればせながらも、こうして最後の目録の刊行にこぎつけ得たのは大山崎地域の関係者の皆さんの温かいご支援があったためです。とりわけ最大の史料を所蔵されていた離宮八幡宮様に長い間のご支援をいただいたことです。所蔵文書の自由な閲覧を許可いただいただけでなく、他家の所蔵文書の撮影などにも社務所の大広間を長年にわたって、ご提供いただくなど、津田定明宮司様を始め禰宜の津田定豊様、そしてそのご家族の皆様には本当にお世話になりました。

深甚の謝意を表する次第です。

この「二足の草鞋」のため、「編集・刊行にあたって」にあるように、私共自身の研究成果という点では、必ずしも十分なものではありませんでした。

しかし、そもそも「常民文化研究所」が大山崎地域の研究を始めるにあたって目標に掲げた、「悉皆調査」を行い、目録を作成し公開することによって、①私共だけではなく多くの研究者がこの大山崎地域の研究に携わることができ、その結果、この地域の総合的な研究が可能となること。②この地域に膨大に存在する中世から近現代にかけての史料の散逸を防ぎ、所蔵者による伝世を確実なものとする、ということの目標は遅ればせながらも、何とか達成できたのではないかと思っております。

願わくば、本目録類が、こうした目的のために十二分に活用されることを期待しております。

二〇二三年春

(神奈川県日本常民文化研究所 客員研究員)

(神奈川県 名誉教授、同元学長)

神奈川県立歴史民俗資料館調査資料目録

離宮八幡宮文書目録（四）近代・現代編 3

2023年3月31日 印刷

2023年3月31日 発行

編集・発行者 神奈川県立歴史民俗資料館

〒221-8686

横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話 045-481-5661

印刷 株式会社 江森印刷所